

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (大台町) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 6 月 24 日 (金) 13 時 15 分～14 時 15 分

2. 対談場所

大台町役場宮川総合支所 1 階 会議室 1・2
(大台町江馬 3 1 6 番地)

3. 対談市町名

大台町 (大台町長 尾上 武義)

4. 対談項目

- 1 森林・林業の将来像と人材育成について
- 2 宮川の堆積土砂の除去及び東又への大規模堰堤の設置について

5. 会議録

(1) あいさつ

知 事

皆さん、こんにちは。今日は大変お忙しい中、尾上町長にお時間をいただきましてありがとうございます。

今年で 6 年目の 1 対 1 対談、今年も大台町が一番最初の開催ということで、大台町が一番というのがこれまでも何回かありましたけれども、今年も 1 対 1 対談を、この大台町からスタートをしたいと思います。

町長からもお話があるのではないかと思いますけれども、まずは、ユネスコエコパーク、昭和 55 年に最初、この大台ヶ原・大峯山が、国内初登録されたわけでありましてけれども、今回、大杉谷を加えて、3 月に新たにユネスコエコパークで登録されたということでもあります。面積も 3 倍になったということで、大台町全域が登録されたということで、ちょうど三重県でも「三重まるごと自然体験構想」とか、いろいろ自然に注目した取組をしっかりとやっていこうということでもありますので、非常に時宜を得た取組ではないかと思っております。

そして、なんといってもサミットで今回、大台町から代表する、まず水「森の番人」、これは IMC のメディアのところでも使いましたけれども、首脳のコーヒーブレイクのときに、この「森の番人」を出していただきました。

それから、初日のワーキングランチの食中酒に日本酒「酒屋八兵衛 山

「廃純米酒伊勢錦」が使われたということでありましたし、ワーキングディナーのまさにメインの松阪牛のフィレを、今回、サミット史上初の女性総料理長の樋口宏江さんが調理したわけですが、そこに大台町で栽培されたワサビが使用されました。今回、水と酒とワサビがメインの場面で使用されたということで、非常に大台町の産品がサミットにて大活躍をしていただいたと思っております。これからもぜひ、こういうサミットで使われたものを生かして、産品の販路拡大に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、きょうは林業の話を中心に議論をするということでもありますので、有意義に時間を過ごしたいと思っております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

大台町長

皆さん、こんにちは。きょうは、知事さんに大台町までお越しをいただきまして、聞くところによりますと、今年のもっとも最初というようなことになりました。本当にありがとうございます。

まず、先月の伊勢志摩サミット、知事はじめ、関係者の皆様に大変お世話になりました。今、話が出ましたように、八兵衛、水、ワサビを使っていたということ、本当にうれしく思っております。私も実際にテレビを観たときに泣けてきて、「森の番人」の社長のところへ電話して、「よかったのう、おまえ今までの苦勞実ったのう」ということでしたが、八兵衛は2日で在庫がなくなったということでもございますし、ワサビもエクシブ鳥羽とかいろんなどころから注文が来て、しかし、2年ほど芋になるのにかかりますので、すぐに対応できないというようなことのように思っています。

水はどんとあるんかなと思ったら、そうでもないというようなことでもございまして、これからしっかりと発信もしながら、いろんなどころで使っていただけるのではないかと期待をしているところでございます。

また、このサミットに際しまして、町民の皆さん方にも花いっぱい運動とか、また、4月の10日、環境クリーン運動ということで、2,500人ほどの皆さんに出発して、運動を展開していただいたことで気運を高めていただいたようなことでもございました。本当に「森の番人」が使われたということがうれしかったわけですが、これからはしっかりとその販路等々を伸ばしていきたいと思っております。お酒も知事のお話にございましたように、食中酒で使われたということでもございます。本当に世界に誇れる産品が大台町にあるんだということで、認識を深くしたということで、今後、地域産品の盛り上げに努力してまいりたいと思っ

ているところでございます。

もう一つ、ここにもこのポスターがあるわけですが、三重県民会議の第4弾のポスターということで、実は大台町出身の積木孝典さんという30代半ばの方が、デザインをされたということで、私も県民会議へ行ってあって、積木さんがご披露されたんですが、そのときは全然知らなかったんです。後からちょうど同級生の子が役場に入っておりまして、「私の同級生です」ということで、なんとそやったんかというようなことで初めてわかったようなことでございます。広報なんかにも取り上げてご紹介をさせていただいたということで、本当にうれしい限りでございました。

お話ございましたように、大台ヶ原・大峯山、ユネスコエコパークが大杉谷を加えて拡張登録ができたということでもございまして、とりわけ大台町全域が、エコパークに認定をいただいたというようなことで、そこで採れるもの、そこで行動、活動できること、そういったようなことがこのエコパークにふさわしいものでなければなりません。そしてまた、いろんな付加価値が備わってくるのではないかと考えておりまして、ものの生産なり観光なり、本当に幅広い分野で生かしていかなければならないと考えております。そこら辺をどう伸ばしていくのかというのが、今後の大きな課題でございまして、昨日、知事からご紹介いただきました庵プロデュースの梶浦さんにお越しいただいて、いろいろご指導いただいたようなことでございます。そういうようなことで、今後もいろんな方々のご指導もいただきながら、観光の振興、また、地域振興を果たしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思っております。

もう一つ、この6月のはじめに、この一番奥に大杉谷地区ってあるんですが、去年そこの住民とつながりのある揖斐川マラソンの関係者が10人ほどで大杉谷地区を走って、すばらしいコースだということもあって、マラソン大会をやろやないかというようなことで地元が発案でやったんですが、山口県から4名ほどみえて、東は東京からもみえて、全体で150人ほどの方がハーフマラソンを走っていただいたというようなことでございます。これは丸っきりの民間でさせたら、とてもやないですが準備も何にもできないというようなことで、町のほうも体育協会とかいろんな形でかわりながら応援をさせてもらったんですが、これもかなりこれから大きくなっていくのではないかと考えておりまして、いろんな地域振興が出てくるだろうと思っております。

そういうことで、こういった自然を活かしながらの観光地づくりとか、そういったものが今後、かなり出てくるのではないかと考えておりますので、今後ともご指導いただきますようによろしくお願いを申し上げたいと思っております。

このようなすばらしい森林を抱える中で、平成 16 年の大災害で、この全域が大きな被害をこうむったということでもございますし、加えて、平成 23 年の紀州の災害もございました。その折にもこの奥では、宮川流域の源流ということになるわけですが、東又というところですが、そこが深層崩壊をしたと、こういうようなことでございまして、これらの土砂の除去、あるいは環境保全、そして安全の確保、そういったことと、林業大学校ということになるわけですが、そこら辺の話で 2 題に絞りながら、知事と対談したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

(2) 対談

1 森林・林業の将来像と人材育成について

大台町長

それでは、1 つ目にこの森林・林業の将来像と人材育成ということで進めたいと思います。よろしく申し上げます。

大台町は、農業あるいは林業というものが基幹産業の大きなものであるということでございまして、近年は、ご案内のように木材価格の低迷が言われて久しいわけでございますけども、非常に林業経営、あるいは後継者の確保等々、非常に厳しくなっている状況でございます。

このような中で当町では長伐期施業を視野に入れながら、森林の立地環境に応じた林業の方向性を探るために、京都府立大学の協力も得て、次世代に引き継ぐ森づくり事業によりまして施業を実施してきております。本事業は、立地環境に応じた適地・適木を図ることによりまして、森林の多面的機能を発揮させ、合わせて人工林の経済性の向上を目指すもので、スギ、ヒノキの適地を GIS を用いて詳細に把握したうえで、適地では施業を実施し、また、不適地では広葉樹林などへの林相転換をすることで、森林価値の最適化を図っているものでございます。

森林立地評価に基づきまして、従来のスギ、ヒノキの林業とともに、広葉樹を活用した新しい林業に取り組んでいるところでございます。また後ほど見ていただきたいと思うんですが、いろんな形で製品ができてきております。

従来型の林業は、高性能林業機械を導入して低コスト化を図り、そのために町費を上乗せした作業道の開設の補助金とか、あるいは基盤整備を実施しているわけでございます。しかし、財政的には非常に厳しい中で推移をしているというのが実情でございます。

森林・林業の将来像につきましては、持続可能な森林経営であり、今後

は、従来型の林業に加えて、短期間で収入が得られるような広葉樹を活用した新しい商品開発や家具づくり、あるいは、苗木生産などの複合経営が必要であると考えております。さらに、持続可能な林業活動は、森林の公益的機能の保全にもつながってまいります。

現在、進めております事業でございますが、その一端を申し述べますと、自然繁殖技術を活用した植栽ということで、これは「森林環境創造事業」の活用とか、先だって調印をさせていただきました「企業の森」、あるいは、「ほっとする道ばた森林整備事業」ということで、これは26年度の「みえ森と緑の県民税」も活用させていただきながら実施をしているようなことでございます。

それから、広葉樹を活用した商品開発ということで、これは後で見させていただきますが、エッセンシャルオイルとか、あるいは蜜蝋ワックスとか芳香スプレーとか燻製用のチップとか燻製器とか、そういったようなものを開発しながら複合経営に持っていこうということで考えているところであります。

あとは、林業関係の多種多様な人材育成ということで、苗木の生産、製材、あるいは自然配植、あるいは、木を使った商品開発、家具職人などの育成をしていく必要があるだろうということでございます。

あと、このエコパークに関連して商品開発等も進んでいくのではないかと考えているところであります。

この森林・林業の将来像にかかわって、持続可能な森林経営というものを実現していくためには、将来の林業の担い手となる人材の確保と育成が急務となっております。林業の現場で生かせる知識や技術を学ぶ林業大学の設置は、極めて必要性が高いのではないかと考えているところでございます。

本町では、林業後継者の育成を目的とした第三セクターのフォレストファイターズが、町有林を主体とした森林整備を担っておりますし、集材効率が悪いところでは、新しい架線集材方法を導入するなどの積極的な森林整備に取り組んでいるところであります。

林業施設では、宮川森林組合やフォレストファイターズなどの認定林業事業体が、皆伐及び搬出間伐を実施しまして、組合の製材工場において建築用材として製材するほか、第三セクターのMSPのプレカット工場から現場へ搬送される仕組みができています。

以上のように、当町としましては、林業の一連の流れを有しております。さらに、この宮川総合支所の2階が、林業大学の場所として適しているんじゃないかということで、教室として活用可能であるということと、実習に活用できるような町有林があるということと、そしてまた、地元森

林組合、フォレストファイターズが実習支援を行うことができる。それらが所有する高性能林業機械での実習が可能であるということで、この大学の設置に適した環境にあると言えると思っております、本町への設置をご検討いただきたいと思いますという次第でございます。

あと、その他でございますが、この森林・林業に関連してですが、CLTといった新たな直交集成板が注目を集めておりまして、町でもこの普及による木材利用の促進に期待をしておりますが、この取組については、町単独で検討することは非常に難しいということもありますので、県が主導して取り組んでいただければと思っておりますので、今後ともこの取組についてよろしく願いをいたしたいと思っております。

まずは、1つ目の議題ということで、よろしく願いをいたしたいと思っております。

知 事

ありがとうございます。では、森林林業についていくつか論点をいただきましたので、ちょっと長くなるかもしれませんが、私のほうからお話したいと思います。今、町長からお話がありましたように、住宅の生産が減少している、木材需要が減退しているという中で、それでも森林経営を持続可能にしていくためには、スギとかヒノキだけの従来型の林業の一本足打法ではなく、先ほどの広葉樹の活用や、あるいはユーカリやコウヨウザン、センダンみたいな15年から20年で早く育つ早生樹、こういうのを混ぜて複合的に経営を行うことが極めて重要でありますので、そういうような取組を早速に大台町さんはいただいていると思っております。

それから、後に出てくる林業大学校の話もそうですが、災害に強い森林づくりと森林に親しむということでやらせていただいた「みえ森と緑の県民税」とか、あるいは、水源流を守る条例をこの前もつくらせていただきましたが、そういう根本にある思いの一つは、中山間地域において、林業が単に産業というだけではなく、地域のリーダーの活躍する場にもなってくるわけであって、地域を支える人材そのもの、中山間地域における地方創生に欠かせない、単にお金を稼ぐというものだけではなくて、人とのつながりとか地域を守るとか、そういう意味で林業が重要だから、今言ったような取組をやっていこうというふうにしました。

これまでも林業の活性化ということでは、路網の整備とか高性能機械の導入とか、あとは架線集材の技術者とか、高性能林業機械のオペレーターとかの担い手の確保などを図ってきましたけれども、やはりさっきのスギ、ヒノキとか広葉樹とか早生樹というものを、入口の商品も多様化していくとともに、それに合わせて、先ほど町長からもご紹介いただいたような出

口の商品のビジネスも多様にしていく必要があって、そういうのができる人材を育てていくことが大事であると思っています。

県として今年度、今までやっていなかったんですが、「三重県林業人材育成方針（仮称）」、どういう林業の人材を県で育てていくのかというのを、人材はすぐに集まったり育つものではないので、今年度いっぱいかけて人材育成方針を策定していきたいと思っています。そのために有識者の検討会を、第1回、6月28日からやろうと思っていますが、林業関係者だけではなく、流通や自然との共生、地域振興に詳しい人たちも参加をしてもらって、そこで長期的視野に立った人材育成の方策と、林業大学校のことについても検討をしてもらおうと考えています。

有識者の人たちに加えて、三重県、林業に限らず地域ごとにいろんな産業の状況が違うので、県内の地域ごとに今後の森林や林業のあるべき姿をみんなで考えようという意見交換を、県内9地域で行っています。5月30日には大台町の担当者の皆さんにも参加していただいて、大台地区の森林・林業、木材関係者との意見交換を行いました。

大台町の担当者の方からは、路網の整備を行いつつ、広葉樹を植栽しながら、多様な森林づくりや商品開発に取り組んでいる。災害に強い森林づくり、景観のよい森林づくり、多様な価値を生み出す森林づくりを行いたい。林業は雇用の場としても重要であるので、産業として自立が必要で、林業をよくしていくためには、人材育成が重要である、などの意見とか取組事例を発言いただいていますので、こういう意見につきましては、先ほど今年度中に策定すると申し上げた「三重県林業人材育成方針（仮称）」に反映をしていきたいと思っています。大体6月いっぱいぐらいをかけて、各地区で意見交換をしていきたいと思っています。

それと合わせて、実験的な人材育成の講座を今年度も7月から林業講座「もりびと塾」をスタートしようと思っています。これは有識者検討会を待って、コンテンツを決めて林業大学校を設置というと時間がかかるので、有識者懇談会をおこないつつ、同時並行でいろんなトライ&エラーをしながらの講座も、この7月から開講する形で行いました。これはコースが2つあって、一つは、主に新規林業就業者で、学卒の人とかIターン・Uターンの人たちを対象とした「林業体験コース」というのと、既に林業に就労していて、指導者になったり、新しい林業感覚を備えた人材をと「林業リーダー育成コース」、この2つのコースを設置しまして、この7月から「もりびと塾」を開催していきたいと思っています。

ここから林業大学校の話ですが、具体的な提案をいただきましてありがとうございました。ですので、今年度そういう検討をしますので、次年度以降の決定になってこようかとは思いますが、極めて具体的な森林整備と

かの実技研修を行える町有林があるとか、フォレストファイターズや宮川森林組合の伐採搬出などの実習支援ができますとか、MSPや宮川森林組合の製材工場などで木材加工の研修もできると。宮川総合支所が教室として活用可能という林業を学ぶための環境が整っていて、魅力的であるということがよくわかりました。

ですので、引き続き、先ほど申し上げた有識者検討会などで議論をし、どういう場の設置がいいのかということを考えてますし、我々としては、何か大きい箱物を新しくつくるというよりは、既にある地域の資源とかインフラの有効活用が大前提と思っていますので、そういう検討をしていきたいと思えます。

ちなみに、その林業大学校のことを勉強するにあたり、他県のベンチマークにいろいろ行ってきました。ここは僕が行ったわけではないんですが、京都府立の京都の林業大学校は、なかなかおもしろいと思う特徴がありまして、まず一つは、地域の商工会、団体や個人、町、林業大学校で「林業大学校地域連携協議会」というのをつくって協力関係をつくっているということ。

2つ目は、まさに今回、町長から提案があったように、この京都府立林業大学校の場合も地元の町が支所の2階を教室として使える状態に改修して、無償提供をしていただいたということ。

3つ目は、これも町長から提案があったのに近いんですけども、町や地域や実習林として町有林や地域の私有林を提供してもらったということ。それから、地域が学生の住居として空き家とか下宿、アパートなどを協力してもらったり、道の駅の営業時間外に学生に朝食を提供してくれたりというような、地域住民が親代わりとなってサポートしてもらっているというようなこともあるようです。

一方で大学校が、地域に高齢者の方も多かたりするので、雪かきとか清掃とか草刈りとかのボランティア活動を大学校の若者がしたり、小中学校との交流などの地域貢献などをしたりしているそうですし、学生が地域の祭りや行事に参加して、その手伝いをしているというような、地域と連携して、地域に既にあるインフラなどの資源を使ってするモデルを京都はやっておるようでもあります。ですので、我々三重県でやる場合においても、地元の市町や林業関係者、あるいは地域との連携協力体制というのは、極めて重要な要素であると思っています。

それから、CLTですが、これはまさにおっしゃるとおりで、去年の10月に、「三重県CLT協会」というのをつくりました。現在、77社が協会に加入してくれています。今年度もそのCLTの研修会を8月に開催予定ですので、県と協会が連携しましてCLTの最新情報の収集や共有、CL

Tパネルの活用事例、安全品質のノウハウを蓄積して、木材建築関係者へ普及していきたいと思います。このCLTは、高知県の企業が結構先進的に取り組んでいて、それを中心に全国協議会みたいなものもあるわけですが、高知県の尾崎知事も非常に熱心で、全国知事会でもCLTに関する国への要望なども最近増えてきていますので、県ももちろんですが、CLTに関心のある全国の知事とも連携して、CLTの普及などについても、力を入れてやっていきたいと思います。

大台町長

次の項目もありますので簡単に置きますが、私も旧の和知町、今の京丹波町ですが、2月にそこを見せていただきまして、広さもひよっとしたらこちらのほうが広いぐらいかなということで、十分できるのではないかなと思ってますけども、ああいった施設整備等につきましても、これからいろいろ県ともよくよく相談しながらやっていかないかなかなと思っております。

県は、ご案内のように、新しい建物はしばらくはつukらないというような方針もあるようでございますが、大台町も財政的には厳しいような状況にもなってきておりますので、何もかもというわけにもなかなかないかなと思いますので、そこら辺しっかりと共有もさせていただく中で、その施設整備にこぎ着けられたらと思っておりますので、その点をご理解いただきたいと思っておりますし、また、食事等につきましても、昂学園高校には寮がありますので、そこら辺もしっかり使えるのではないかなと思っております。あそこの寮が240人入れるようにはなっておるんですが、このごろ、多気町や大紀町まで通学オッケーとなってきましたので、寮を使う人数が減ってきたということで、食事などもその分減ってきていることもあります。そういうことがありますので、15人でも20人でも毎日そういうふうにして食事ができるようになれば、こちらのほうの運営もいいのではないかなと思っておりますので、そこら辺ご認識いただく中で、また後ほど、この施設も見えていただく時間がありましたら、よろしくお願いをしたいと思います。

2 宮川の堆積土砂の除去及び東又への大規模堰堤の設置について

大台町長

急峻な山が大台町にはかなり存在をしておりますして、冒頭申し上げましたように、16年災害でもかなりの崩壊がありました。23年でも、今から話をする東又は、大規模な深層崩壊というようなことで、今もその土砂がど

らんどん出てくるというような状況でございます。そのたびに、下流域の安全が脅かされておるといふことと、そして、出てきた土砂の撤去、これも本当に知事のほうへ、あるいは県土整備部のほうへもしょっちゅうお願いをして対処をしていただいておりますが、この予算そのものもばかにならないし、また、この土砂を捨てるどころも、大台町内では限られてきたということもございまして、私はよく三瀬谷ダムの下流へ運んで、あそこから大水で伊勢湾へ流れていくようにしたらどうかとか、あるいは、熊野灘のほうまで持っていったらどうかということではなくて、現実的でないような話もさせてもらうんですが、それぐらい土砂の撤去については、非常に困ってきておるといふことでもございまして、こういった雨が少し続いただけでも、濁りが発生してくるといふことで、環境保全上よくないと。やはり日本一の清流と言われる割に、川の状況は非常に悪いと。この三瀬谷ダムへ向いて濁りが流れ込んで、2、3日の濁りで取れるものが、このダムで一ヶ月は濁っていると。したがって、伊勢湾までずっと濁っているという状況がございまして、農林水産部のほうで今、治山ということに対処してもらっております。これは災害前から、ここの治山事業が大事だということと、保安林管理道も含めて治山の整備、認定をつけてもらいました。

23年に大被害が発生したわけですが、既に農林水産部で整備してきておりましたので、今の農林水産部のほうでお世話になっておるといふことでございまして、その手法で土砂がとめられるかというところがございまして、その都度、その都度、予算も必要になるということがありますので、この際、2本の大きな谷があるんですが、その谷は一つまとめたところで、大規模な堰堤を造って、そこで土砂をとめると。濁りはなかなかとまらないかもわかりませんが、そこでとにかく出てくる土砂をとめるといふ、そのことで安全を確保していくことが非常に大事ではないかと思っております。そこら辺も提案しながら、なんとか対処できないかと思っておりますので、その点、よろしくお願ひしたいと思ひます。

知 事

今、2点、宮川の堆積土砂の撤去と東又の大規模堰堤の話をしていただいたと思ひます。堆積土砂の撤去については、宮川の本川、それから支川の桧原谷川など、23年の台風12号とか、27年度までに35万 m^3 、堆積土砂を撤去して、おおむね23年の前のところまでは復旧していると思ひますが、まだ27年度末で11万 m^3 の土砂が堆積していますので、着実に対応していく必要があると思ひます。河川維持事業とか河川改修事業で撤去したり、砂利採取についても、調整をしていきたいと思ひますし、災害復旧事

業も活用して撤去するとか、あらゆる事業を活用して土砂撤去に取り組んでいきたいと思っています。

また、砂防河川で土砂の流出を抑制する対策工の適地も検討をしていきたいと思っています。

それから、東又の件ですが、今、町長からもおっしゃっていただきましたとおり、これまで不安定土砂の移動防止を図る5基の治山ダムを整備をやってまいりました。今後は、濁水の発生源となっている崩壊土砂の堆積箇所において、平成29年度から新たに河道を造成し、増水時に河川水が堆積土砂を浸食することなく流下するようにすることで、濁水発生の防止を図るということを、今、考えております。

それから、東又の関係では、27年度に「みえ森と緑の県民税」で東又谷の治山ダムに異常堆積した土砂を2回、約1万4000 m³除去して、28年度も9,000 m³の除去を実施する予定です。

大規模堰堤の話もありましたが、治山事業の考え方から、なかなか難しいところがあるものの、要はどういう方策で土砂をなるべくとめる、少なくしたり、濁水をなくしていけばいいのかということなので、いずれにしても知恵をいろいろ出す必要があるだろうと思っていますので、県の地域機関で大台町さんと一緒に東又谷を含む大台町全体のこういう土砂対策について、検討する場を設けさせていただいて、具体的に知恵を出すというようなことをやらせていただければと思っていますので、ご協力を賜ればと思います。

大台町長

災害の23年のときの直後に、私撮ってきたんですけど、上も下もわからんのですね。3堰堤があるんですけど、どこが上で下やらわからんぐらい、用をなしていないというような状況なんですね。こういうのではなしに、もっと大きいものをつくっていただいて、こういうふう完全に深層崩壊、岩盤が見えているような状況です。ですので、これがなかなかとまりにくいのではないかと素人なりに思っております。少しの雨とか水で今までつけていた管理道が流されたりとかして、なかなか行ったり来たりというようなことで、それで5年も経過してきておるといようなことで、遅々として進んでいないというのが実態でもありますので、そういった、今、知事おっしゃっていただきましたように、町と県のほうで協議の機会をつくってできるような形で、なんとか抜本的にできるようなことにならないかと思っています。

それというのも、この5年の間に、これもそうですが、これは実際の河川と住宅がそんなに高低差がないというようなことなんですね。それだけ

土砂が堆積してきているという、そういうことで非常に安全が脅かされてきておると。これについても、しよっちゅう県のほうでも採っていただかならんとということで、費用もばかにならんと。こういうようなことでもありますので、規模は砂防のほうが大きいんですが、これまで農林が取り組んできてもらったというこれまでのいきさつとか、そういったようなことがあるんですけども、もう砂防も治山も言わずに、何が一番大事なのか、県民の命を守らないかんということ、生活を守らないかんということ。そしてまた、環境保全を実施していかないかんということがありますので、ぜひともここは重点的な扱い方でお願いできたらと思いますので、よろしく願いをいたしたいと思います。知事の一言で「やれ」ということで言うてもらったらよろしいので。

知 事

最終的な解決策はさておいても、今、町長がおっしゃっていただいたように、農林水産部や、県土整備部やというのではなく、しっかり知恵を出して協議をするような形にしていきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

(3) 閉会あいさつ

知 事

今日は尾上町長、ありがとうございます。

今の林業の話、また、災害防止ということで、大変重要であります。つい最近も九州を中心に大変大きな雨がありましたし、その地震と加えて、熊本県なども大変大きな被害があったところです。我々も緊張感を持ってしっかりやっていきたいと思います。

一方で、先ほど冒頭の町長のご挨拶の中で、自然を生かした観光地づくりというお話もありました。今年、三重県では伊勢志摩国立公園の70周年で、全国エコツーリズム大会を11月に開催をさせていただきますので、エクスカーションで大台町へも来てもらおうと思いますし、県全体でエコツーリズムとかを盛り上げていくような取組もしていこうと思っておりますので、ぜひ、大台町さんのご協力もいただければと思いますし、我々が今、観光においてDMOという地域の組織、行政主導というより、民間でマネジメントしていく組織の設立に向けて、今、全県で頑張っているところであります。大台町さんにも関心を示していただいて、積極的に取り組んでいただいておりますことを感謝申し上げ、ぜひいいもののできるように、ともに取り組んでいきたいと思いますので、よろしく

お願いします。ありがとうございました。